

2019 年 1 月 16 日発行



環境活動レポート

対象期間 2018 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日



 株式会社長塚電話工業所

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業です



®環境省
エコアクション21
認証番号 0001360



目 次



目次	2
----	---



環境方針	3
------	---



事業活動の概要	4
---------	---



EA21 推進組織図	5
------------	---



環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較）	6
--------------------------	---



環境活動の取組みと評価及び次年度の活動	8
---------------------	---



環境関連法規制の遵守状況	20
--------------	----



代表者による全体の取組状況の評価と見直し	21
----------------------	----



環 境 方 針

＜基本理念＞

当社は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、社会の一員として、地球環境の保全と向上に貢献すべく、環境マネジメントシステムを経営の一環として取組み、全ての事業活動において環境保全に配慮した継続的な行動を推進します。

＜行動指針＞

当社は、すべての事業活動が環境に何らかの影響を及ぼしていることを認識、理解した上で、情報通信機器の商品の開発・製造・販売及びメンテナンスの事業活動においては特に、以下の環境保全活動に積極的に取組みます。

1. 事業活動の全領域で、安心・安全を基本とし、資源・エネルギーの有効活用、汚染防止、廃棄物の削減・適正処理及び製品のライフサイクルを通した環境配慮製品開発及びサービス業務を推進します。
2. 環境に関連する法規制及び各自治体の環境条例、協定及びその他当社が同意する要求事項を遵守すると共に、可能であれば自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
3. 次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、その活動状況を環境マニュアルに沿って定期的に確認、評価、改善を行います。
 - (1) 製品に関する環境配慮の推進を図る。
 - (2) 業務における QCD の向上を図る。
 - (3) 電気エネルギー等の節減による C O 2 の排出抑制、総排水量及び廃棄物の排出抑制を図る。
 - (4) 化学物質の適正管理を図る。
 - (5) グリーン購入の推進を図る。
4. 基本方針の周知徹底のため、環境教育、社内広報活動の実施により、全従業員が結束して環境マネジメントシステムの維持向上を図ります。
5. 環境保全関連の行政機関、団体や地域社会における環境保全活動に対し、積極的に参画し社会貢献を推進します。また地域住民、利害関係者との双方向環境コミュニケーションをとり、環境改善を誠実に対応します。
6. 環境活動レポートは、社内外に公表します。

2006 年 9 月 1 日制定

2016 年 1 月 1 日改定

2017 年 1 月 1 日改定

株式会社 長塚電話工業所

代表取締役

長 塚 将



事業活動の概要

1. 事業者名及び代表者名

株式会社 長塚電話工業所

代表取締役 長塚 将

2. 所在地

【高津営業所】EA21 認証・登録範囲 (2007 年 2 月 26 日認証・登録)

〒213-0031 神奈川県川崎市高津区宇奈根 643-3、643

【本社】EA21 認証・登録範囲 (2013 年 2 月 26 日認証・登録)

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 2-11-1

【西日本ソリューション事業部】EA21 認証・登録範囲 (2013 年 2 月 26 日認証・登録)

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀 1-9-11 アイ・プラス江戸堀 2 階

3. 環境管理責任者及び担当責任者連絡先

環境管理責任者： 技術部 部長 櫻井 孝幸

担当者： EA21 推進事務局 岡田 あい子

連絡先： 電話 044-850-1533

FAX 044-850-1534

4. 事業内容

情報通信機器の製造販売及びネットワーク関連システム販売

5. 事業の規模 (2018 年 12 月 31 日現在)

(1) 従業員数 19 名 (本社 1 名 高津 14 名 西日本 4 名)

(2) 敷地面積 総延床面積 371 ㎡

【内訳】

■本社 約 79 ㎡

■高津営業所 約 225 ㎡

■西日本ソリューション事業部 約 67 ㎡

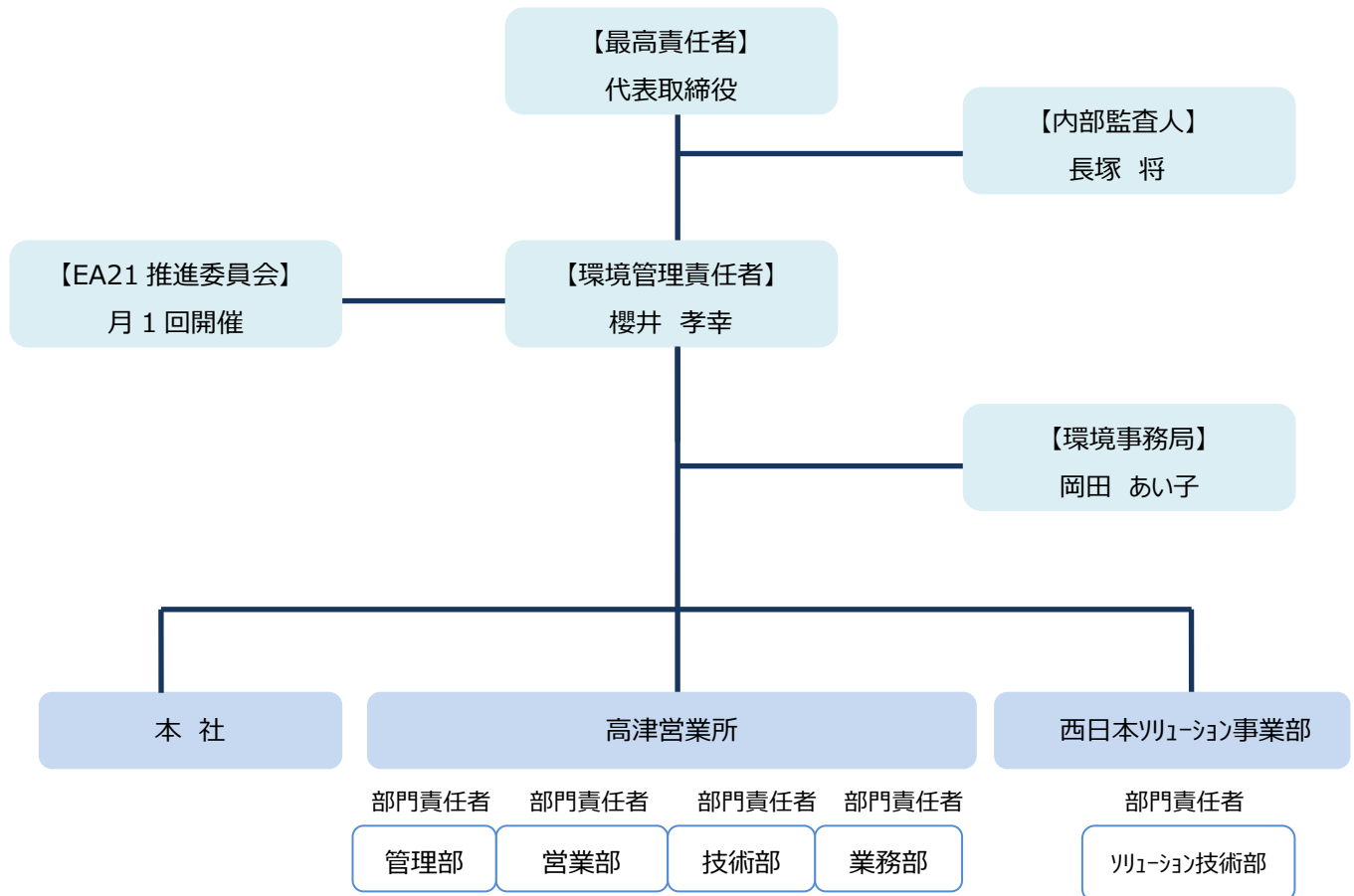
(3) 売上高 (2018 年 1 月～12 月) 768 百万円



EA 2 1 推進組織図

当社 EA 2 1（エコアクション 2 1）の運用組織を下記の通り定める。

組 織 図





環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較）

1. 過去5年間の三大環境負荷の実績（総量ベース）

項目・単位	年度	59 期 2013 年	60 期 2014 年	61 期 2015 年	62 期 2016 年	63 期 2017 年
二酸化炭素排出量※1	Kg-CO2	24995.24	20467.56	18797.00	17346.00	18477.00
廃棄物排出量 (事業系一般廃棄物) ※2	Kg	98.00	152.00	105.00	132.00	132.57
水使用量	m ³	61.00	53.00	52.00	65.00	70.00
備 考（活動内容変更点）		大阪にて電力量データ取得開始	大阪にて廃棄物排出量データ取得開始		10 月より高津分室稼働	

※1 二酸化炭素の実排出係数は

平成 26 年度東京電力(株)の実排出係数 0.505Kg-CO2、関西電力(株)の実排出係数 0.531Kg-CO2 を基に算出しています。

大阪事務所の電力については、59 期 2013 年からデータを取り始めました。

※2 廃棄物排出量は、大阪については 60 期 2014 年からデータを取り始めました。

2. 主要な環境目標と環境負荷・実績

64 期の環境目標、削減目標を下記のとおり定め、環境活動に取り組みました。

環境目標項目	63 期 2017/1-12	64 期 2018/1-12		65 期 2019/1-12	66 期 2019/1-12
	基準実績	目標	実績	目標	目標
二酸化炭素の排出抑制 単位 Kg - CO2/売上 実排出係数 東京 0.505 大阪 0.531 平成 26 年度採用	削減率	-2.3%	-15.8%	-3.7%	-5.0%
	27.01	26.39	22.74	26.02	25.66
Kg-CO2 総量データ	18477.00	18477.00	17461.00	18477.00	18477.00
焼却処理廃棄物の 排出抑制 単位 kg/売上	削減率	現状維持	-10.5%	現状維持	-5.3%
	0.19	0.19	0.17	0.19	0.18
Kg 総量データ	132.57	132.57	133.95	132.57	132.57
水資源投入量の抑制 単位 m ³ /のべ人数	削減率	現状維持	+17.1%	現状維持	現状維持
	0.41	0.41	0.48	0.41	0.41
m ³ 総量データ	70.00	70.00	84.00	70.00	70.00

今期は二酸化炭素の排出抑制及び焼却処理廃棄物の排出抑制に売上原単位を採用し、水資源投入量の抑制はのべ人数原単位を採用しました。高津分室が 2017 年を通して稼働し、年間データが入手できましたので、今期は前期 63 期を基準年としました。

* 本社の電力使用量のうち、低圧電力はデータ入手可能であるが、従量電灯については、本社の家主さんのメーターを使用しており、使用量が不明のため、概算として総電力使用量の 1 / 3 を本社使用分としてとしている。また本社水使用量については、本社の家主さんのメーターのみで使用量が不明なために、概算として 1 か月、0.5 m³を水使用量としている。

* 西日本ソリューション事業部については、個別の電気使用量、廃棄物量についてはデータ入手可能であるが、水使用量については、ビル内共同トイレのため情報入手は不可となっている。

1. 三大環境目標は下記のように取組みました。

- ① 二酸化炭素の排出抑制目標は、本社、高津営業所（高津営業所分室も含む）、西日本ソリューション事業部の共通目標としました。
- ② 焼却処理廃棄物の排出抑制目標は、本社、高津営業所（高津営業所分室も含む）、西日本ソリューション事業部の共通目標としました。
- ③ 水資源投入量の抑制目標は、本社、高津営業所（高津営業所分室も含む）の共通目標としました。

2. 上記の主要な環境目標の他に、以下の事項も目的、目標として取組みました。

① **化学物質の管理の徹底**

- ・ヘキサンの適正管理・使用記録
- ・共晶半田の計測と使用記録

② **製品に関する環境配慮**

- ・箱エコ（個装箱省略）の推進
- ・情報処理票の運用
- ・既存製品の見直しと新製品の開発
- ・デモ機用送付箱再利用の推進
- ・緩衝材の見直し

③ **業務における QCD の向上**

- ・ホームページの更新
- ・ソリューション事業の原価管理の運用
- ・電話設備入替えの検討
- ・フォーキャストの共有化

④ **グリーン購入の推進**

- ・エコ商品購入比率 70%以上の維持
- ・グリーン調達の継続

⑤ **5S・4定の徹底**

- ・商品、部品の定置定物化の実施
- ・床みがきデーの実施
- ・部門毎のテーマに基づいた整理整頓



環境活動の取組み内容と評価及び次年度の活動

1. 二酸化炭素の排出抑制

【取組み内容】

- 1) 5月～10月給湯器の使用停止
- 2) サーキュレーターの使用の徹底、空調温度の適正化
- 3) 遮熱のためのシャッター管理
- 4) 電気機器の未使用時の電源 OFF

	2017 年 排出基準値	2018 年 排出目標値	2018 年 排出実績	評 価
Kg-Co2/売上	27.01	26.39	22.74	○
削減率		-2.3%	-15.8%	
Kg-Co2 総量データ	18477.00	18477.00 (総量現状維持、 売上 2.3%アップ)	17461.00	

【評価】削減目標達成

前年度に引き続き売上原単位を採用しました。LED 導入等の設備投資も一段落し、地道な節電活動、省エネ活動の年となりました。

高津の電気使用量及び電気料金を 2016 年-2018 年 3 期比較しました。この比較は LED 導入前・後の状況を検証するためのものなので、エアコン用の低圧電力及び分室の電気使用量は含まれていません。

電気使用の内容としては、オフィス機器や 3D プリンタの電気使用量も含まれていますので、LED のみでの比較とはなりません。年間 30%～40%の費用削減となっています。LED 導入前の試算では設備投資の回収年として 5～6 年というデータが示されていましたが、ほぼ試算通りに推移しています。

高津従量電灯電気使用量 3 年比較表（表 1）※低圧電力量および分室の電気使用量は除く。

電気料金 (円)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2016年	高津	19,805	21,093	22,379	21,682	19,050	21,149	22,477	20,209	20,574	28,392	20,158	18,282	255,250
2017年	高津	17,751	20,261	20,067	20,286	16,603	13,557	13,259	12,671	13,110	12,627	14,855	13,413	188,460
2018年	高津	13,793	14,646	14,577	14,261	14,675	14,182	14,681	15,256	14,197	14,452	16,063	15,586	176,369

黄色部分が LED 導入後の電気料金です。

1) 5月～10月給湯器の使用停止

初夏から秋にかけての給湯器使用は停止し、LP ガスの削減に努めています。また、以前、夏場の麦茶は事務所で作っていましたが、ここ数年は大型ペットボトルの購入に切替えました。結果、ガス使用はより削減されています。さらに、月2回ある全体会議のお茶出しも廃止し、ますますガス使用のシーンが少なくなっています。

2) サーキュレーターの使用の徹底、空調温度の適正化

サーキュレーターの導入や機種変更、新エアコンの導入などの実施により、10年前に比べると、暖かい空気、冷たい空気の溜まりが減少し、効果的な室温調整ができるようになりつつあります。今後はより効果が出るようにサーキュレーターの位置の見直し等をはかります。

3) 遮熱のためのシャッター管理

数年前まで活動項目としていました。活動が定着したと判断し、年間の実施項目からはずしましたが、「シャッター管理ができていない！」という声が出て、今期から再登場させました。夏場は東側のシャッターを下ろし、直射日光で室温が上がらないようにするための工夫です。夏場には効果的な省エネ対策です。

4) 電気機器未使用時の電源 OFF

設置場所によってサーキュレーターのうっかり切り忘れがありました。リボンをつけて稼動状態がわかるようにし、うっかり切り忘れを防止しました。また、蛍光灯よりも LED 照明のオンオフの切替が早いので、よりまめに照明のオンオフを行うようになった、という現場の声もありました。



【今後の課題】

冬場、作用場から事務所へ冷たい空気が流れこんで、特に足元が寒いという意見が出ています。暖かい空気を逃さないための対策が必要となりました。

2. 焼却処理廃棄物の排出抑制

【取組み内容】

- 1) 廃棄物の分別化の徹底
- 2) コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用
- 3) ミスプリ防止のためのプリンタ設定確認
- 4) 全社的エコキャップ収集活動
- 5) 長期在庫品の廃棄量削減

	2017 年 排出基準値	2018 年 排出目標値	2018 年 排出実績	評 価
Kg/売上	0.19	0.19	0.17	○
削減率		現状維持	-10.5%	
Kg 総量データ	132.57	132.57 (総量現状維持、 売上 2.3%アップ)	133.95	

【評 価】 削減目標達成

前年に引き続き売上原単位を採用しました。12 月で売上が伸び、目標達成となりました。

高津・大阪 焼却廃棄物量推移表（表 2）

焼却廃棄物量Kg	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2016年													
高津	4.21	10.1	11.28	10.11	2.76	16.38	7.13	6.58	9.37	5.3	11.81	12.35	107.38
大阪	1.46	2.44	2.72	2.17	0	1.26	1.85	1.67	1.66	1.78	4.39	4.03	25.43
2017年													
高津	4.95	13.19	6.41	13.48	1.13	11.85	4.81	9.88	5	8.37	14.69	17.57	111.33
大阪	0	1.65	3.01	0	1.38	0	2.25	1.9	1.77	3.41	0	5.87	21.24
2018年													
高津	13.32	10.32	8.41	12.25	7.17	9.6	6.15	9.02	5.82	10.39	6.28	12.26	110.99
大阪	0	4.03	2.3	3.14	0	1.78	1.56	1.32	2.18	2.04	0	4.61	22.96

1) 廃棄物の分別化の徹底

廃棄物の分別化教育としてテストを実施しました。満点の解答を求めるというよりは、各人が陥りやすいミスを自分で認識することも重要でした。

また、前期に引き続き「マイ箸」使用を推進しました。

2) コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用

PC からの印刷の場合は特に印刷多機能を駆使して両面印刷、集約印刷を積極的に行い、ペーパーの使用量削減化に努めています。

3) ミスプリ防止のためのプリンタ設定確認

コピー機を複数セットで使用した後、リセットをかけなかったために、後の社員が不必要なコピーをしてしまう、ということが度々発生しました。使用後にリセットを必ず行うよう周知しました。

4) 広告 FAX 送信の停止

売込広告がFAX送信されてきます。今までは放置していましたが、今期はFAX送信を停止できるところは停止の意思を示すようにしました。コピー用紙の無駄紙削減の一環です。

5) 全社的エコキャップ収集活動

高津でエコキャップ収集を開始したのが 2009 年 3 月でした。
早 9 年の継続活動となっています。収集するだけの単純な活動ですが、
長年に渡り社員には協力してもらっています。
今後も社会貢献の一環として、また廃棄物削減のために継続です。

5) 長期在庫商品の廃棄量削減

前期から始めた活動です。長期在庫削減、無駄な仕入れの抑制のために
実施しています。今期の廃棄金額は ¥ 157,500 でした。
廃棄量を金額化することで、イコールお金を捨てているという意識づけを行い、
無駄削減につながることを期待しています。



【今後の課題】

基本的には今期の活動の継続となります。また、週 1 回予定の廃棄物のゴミ出しを持ち回り制にする案が出て
います。全員参加により仕事の大変さを認識してもらいたいと考えます。検討案件です。

3. 水資源投入量の抑制

【取組み内容】

1) 節水に努める

	2017 年 排出基準値	2018 年 排出目標値	2018 年 排出実績	評 価
m ³ /のべ人数	0.41	0.41	0.48	×
削減率		現状維持	+17.1%	
m ³ 総量 データ	70.00	70.00	84.0	

【評 価】削減目標未達成

前期より水使用量は目標値をのべ人数の原単位としています。大阪事務所はトイレ等水回り系設備がビル内共有のために、数値把握は不可。目標値設定は高津及び本社のみとなっています。

水使用のほとんどは生活用水としてですが、3Dプリンタの使用頻度が高くなると水使用量も増加することになります。

1) 節水に努める

水漏れの蛇口は早急に修理するなどして、引き続き節水に努めています。

【今後の課題】

節水を意識して現状を維持することとします。

4. 化学物質の適正管理

【取組み内容】

1) ヘキサンの適正管理・使用記録

2) 共晶半田の計測と適正管理

	2018 年目標	2018 年実績	評 価
重点活動内容	ヘキサン、共晶半田の 適正管理	ヘキサン、共晶半田 の適正管理の実施	○

【評 価】 目標達成

1) ヘキサンの適正管理・使用記録

ヘキサンからエタノールに切替えているため使用量が減少しています。環境面、安全衛生面では良いことですが、保管量が減らないことが悩みにもなっています。在庫がなくなった時点でヘキサン使用を停止する方針ですが、先の話になっています。それまでは、日々の適正管理に努めていきます。

2) 共晶半田の計測と適正管理

共晶半田は試験的作業の中で使用しています。使用は少量ですが必要材料ということで、適正管理に努めています。

【今後の課題】

引き続き適正管理に努めます。

5. 製品に関する環境配慮

【取組み内容】

- 1) 箱エコ推進の継続
- 2) 「情報処理票」の運用継続
- 3) 既存製品の見直しと新製品の開発
- 4) デモ機用送付箱の再利用の推進
- 5) 緩衝材の見直し

	2018 年重点目標	2018 年実績	評 価
重点活動内容	既存製品の見直しと 新製品の開発	既存製品の見直しと 新製品の開発の実施	○

【評 価】 目標達成

部品の短期調達が困難になってきた事や部品の小型化等、部品調達環境に変化が生じています。その中で、既存製品を長年にわたり作り続けることのむずかしさがあり、見直し作業は必須となってきました。新製品の開発もそうですが、中長期的視野で生産計画を立てることが重要となってきていることを痛感しています。

1) 箱エコ推進の継続・エコ梱包の周知広報

メーカーだからこそ可能な活動であると自負しています。今期箱エコ推進活動は 4,240 箱達成しました。箱エコ数は前期に比べ減少しましたが、採用して下さるお客様の裾野が広がっています。

2) 「情報処理票」の運用継続

「情報処理票の運用」は確実に定着しました。

3) 既存製品の見直しと新製品の開発

既存製品については、部品の共通化、新製品については一層の小型化やマルチデバイス化への変更を行い、様々な角度からの「省く」を実行してきました。

4) デモ機用送付箱の再利用の推進

購入前の機器お試しにより、返品や誤注文を防止するためにデモ機の使用をお客様に薦めています。そのためにデモ機用の箱を長期間の使用に耐えうるよう工夫をしました。かいあって、1 回ごとに交換していた送付箱の使用を削減しました。
最高 20 往復まで使用可能で、1 デモ機用送付箱で約 2,000 円の経費削減という試算になりました。



5) 緩衝材の見直し



今までは緩衝材といえばエアピロで、商材によっては大量のエアピロを必要とする場合があります。そこでボーガスペーパーを併用することにしました。購入コストの削減はもちろんのこと、どんな隙間にも対応できる使い勝手の良さ、そして使用後は資源ゴミとして処分できるので環境問題にもメリットがあります。エアピロ全廃はむずかしいのですが、今後の緩衝材はボーガスペーパー使用に重心をおいていきます。

【今後の課題】

社会の流れに対応して、弊社でも取扱説明書の廃止を検討する予定です。ペーパーレスにすることで印刷物の経費節減及びお客様サイドでの廃棄物削減も可能となります。ただ、紙ベースを完全廃止にすること、お客様の利便性を維持するという事等多角的に検討する必要があります。

また、新製品の開発は積極的に進めていくことが重要です。物作りをしてこそ、メーカーであることを肝に銘じて活動してまいります。

6. 業務における QCD の向上

【取組み内容】

- 1) ホームページの定期更新
- 2) ソリューション事業における原価管理の運用
- 3) 電話設備入替えの検討
- 4) フォーキャストの共有化

	2018 年重点目標	2018 年実績	評 価
重点活動内容	ソリューション事業の原価管理の運用	ソリューション事業の原価管理の運用	○

【評 価】 目標達成

数年にわたり課題となっていた原価管理運用ですが、問題がクリアされました。他の取組み内容も着実に実行されましたので、目標達成です。

1) ホームページの定期更新

数年前と比較すると、ホームページからのお問い合わせが格段に多くなりました。お客様がホームページを活用していることの表れと言えます。頻繁にホットニュースをアップすることは難しいですが、メンテナンスをまめに行って、埃のかぶったホームページにならないようにしています。

2) ソリューション事業における原価管理の運用

日報のフォームを変えるなどして、提出しやすくしました。そのことによりソリューション事業における社内労務費が算出しやすくなりました。一応長年の課題はクリアされることになりました。

3) 電話設備の入替えの検討

お客様からの「話中が多く、つながらない」というご意見。内部的には業務部の社員から電話の取次ぎが多く、非効率的であるという意見。などがあり、全面的に電話設備の入替えに踏み切りました。回線数の増設、各部へのダイヤルイン化および営業に貸与しているスマホのダイヤルイン化等を実施しました。この設備の刷新により、業務の電話取次ぎ仕事の軽減、お客様の利便性の向上、通信費の削減を目指しました。

4) フォーキャストの共有化

弊社の場合、部品の短期調達が困難になってきたという背景があり、中期長期的な部品調達計画がより重用さを増してきました。計画的手配のためには、営業のフォーキャストを技術部と共有することが重要になりました。営業からの情報アップは部品調達及び製品生産、そして売上向上に繋がります。

【今後の課題】

来期は営業業務の効率化と、在庫管理の正確性と効率化をメインにすえて、QCD の向上を考えていく

いと考えています。部と部の連携プレーに基幹システムを活用することで、効率的業務フローを探ります。働き方改革にも繋がることで、重点事項としていきます。

7. グリーン購入比率の向上

【取組み内容】

- 1) エコ商品購入比率 70%以上の維持
- 2) グリーン調達の継続

	2018 年重点目標	2018 年実績	評 価
活動内容	グリーン購入比率 70%維持	グリーン購入比率 70%維持	○

【評 価】 目標達成

1) エコ商品購入比率 70%の継続

今期は 85%の達成となりました。来期からこの活動は環境経営計画からははずれますが、エコ商品の積極的採用は継続していきます。

2) グリーン調達の継続

グリーン調達もまた、このまま継続します。

8. 5S・4定の実施

【取組み内容】

- 1) 商品・部材の定置定物化の実施
- 2) 床みがきデーの実施
- 3) 部門毎のテーマによる整理整頓

	2018 年重点目標	2018 年実績	評 価
重点活動内容	商品部材の 2 定の 実施	商品部材の 2 定の 実施	○

【評 価】 目標達成

作業場での整理整頓が進みました。「見た」目でもスッキリを感じることができるようになりました。
今期は目標達成としました。

1) 商品・部材の定置定物化の実施

今期作業場での人的移動が頻繁に発生しました。新しい人々のおかげで整理整頓が進み、定置定物化が改善されました。

2) 床みがきデーの実施

2ヶ月に1度、床みがきデーを実施しました。毎週月曜日の朝掃除の時にも、床みがきをしてくれる社員もありその積極的姿勢は評価できることでした。

3) 部門毎のテーマによる整理整頓

日にちを決めての整理整頓を実施するのはなかなかむずかしいことです。日常活動の中で、さりげなくできるようなレベルになることが望ましいことです。

【今後の課題】

製品の入出荷管理システム導入の検討とともに、さらに商品・部品の整理整頓・定置定物化が促進するように努めます。

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

適用法令	該当する活動	遵守状況
目黒区廃棄物の発生処理抑制、再利用の促進及び適正処理に関する条例・規則	・事業系一般廃棄物等の排出方法、有料ゴミ処理券の貼付 ・廃棄物分別化の徹底	遵守
川崎市公害防止等環境保全に関する条例	・生ゴミの適正処理、環境洗剤の使用	遵守
大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する規則	・事業系廃棄物の発生の抑制、再利用及び再利用の促進と減量	遵守
消防法	・5S活動-保管庫の適正管理 ・管理責任者の明記、使用手順書による取扱 ・消火器の設置	遵守
労働安全衛生法	・排気装置の点検 ・専用洗剤の用意と手洗いの実行	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物の分別化の徹底 ・廃棄物処理業者との委託契約、契約終了後の保管 ・マニフェストの交付、回収の日程管理、保管 ・管理票報告書の提出	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	・業務用エアコンの簡易点検 ・点検及び整備に係る記録と保存	遵守

(2) 過去3年間、違反はありません。

また、関係機関等からも特に指摘はなく、訴訟も同様ありませんでした。



代表者による全体の取組状況の評価と見直し

今年度は三大環境目標の二酸化炭素及び焼却廃棄物の排出抑制において売上原単位を水使用量の削減についてはのべ人数の原単位を再採用継続しました。売上原単位採用の環境目標については12月売上が明確にならない状況があつてハラハラしました。が、結果は達成となりましたので喜ばしいことです。活動項目に行き詰まり感がありますが、遮熱のためのシャッター管理や広告FAX送信の停止など、できることはまだあることを認識しました。地道な取組ではありますが、このような事の積み重ねが大切だと考えます。

水使用量については未達成でしたが、限界値に近い生活用水としての使用なので、今後も節水を心がけて活動しましょう。

製品に関する環境配慮については、メーカーを取り巻く環境が厳しくなっていることを踏まえ、円滑な部品調達及び生産を行っていけるよう製品の見直しや新製品開発を行っていくことが重要です。デモ機用送付箱の再利用は有意義な新活動だと考えます。コスト削減であると同時に、お客様にとっても便利なシステムなのではないかと思います。緩衝材の見直しについては、省スペース化及びコスト削減及び資源のリサイクル性からみても良いアイデアでした。継続しましょう。

業務におけるQCDの向上について。ソリューションの原価管理の運用は、社内労務費用のためのデータ取得もできるようになり、課題はクリアされました。今期一番の活動としては、電話設備の入替えが挙げられます。回線数の増加によりお客様の不便を解消し、また大阪-高津間の内線化や営業の携帯電話のダイヤルイン化等で電話料金コスト削減も見込まれています。そして、設備入替え目的の最重要課題であった業務部に集中していた受電業務の分散化も緩和できつつあるのではないかと思います。今後、これがどのように業務のQCDを向上させているのかの検証も大切です。

5S4定が達成できたのはうれしい限りです。作業場の新しい人々の工夫に感謝すると同時に、この流れをストップしないようにスパイラルアップしましょう。

来期は2017年版ガイドラインに基づき活動します。環境経営方針も刷新しますので、新たな一歩を踏み出しましょう。環境目標としては今期目標を継続とし、三大環境目標についての原単位採用も継続します。今期、売上原単位採用の目標については、売上金額が目標値を大幅に超えてのクリアとなりました。本来ならば今期を基準年として立案しなおすべきかもしれませんが、売上の特殊事情を考え、このまま2017年を基準年とした当初の計画を推進することとします。

具体的な活動としては全員参加型をさらに推し進めます。可能な限り担当者を具体的に決め、活動内容を具体的に指示するなど、更に深まりのあるEA21活動にしていきたいと思います。新しいガイドラインの基、より経営を意識したエコアクション21の活動となるよう努力していきます。

代表取締役 長塚 将